

九州の邪馬台国VS纏向の騎馬民族』著者 槌田鉄男

出版社 文芸社 令和元年十月一日発行

定価1650円(税込み) 351ページ

古代史最大の謎である邪馬台国論争はなぜ果てしなく続いてきたのか。それはこの時代が古墳時代の幕開けの時であり奈良に誕生した前方後円墳が急速に日本各地に広がったという事実が目が向けられてこなかったからだ。この前方後円墳の急速な拡がり、それは交通手段のイノベーションなしでは起り得ない。馬に乗る人達・騎馬民族が来たのだ。

「この本ではこのことをベースに『九州説の証明』、新しい騎馬民族説の提案』と言う2つのテーマを扱っている。その中で騎馬民族・扶余と彼らに担がれた公孫氏によって纏向政権が造られ九州の邪馬台国が彼らに征服されたことを考古学的事実と魏志倭人伝の新たな解釈から証明している。そして 永行十日陸行一月」は266年に纏向政権が邪馬台国の使節と共に晋に朝貢し邪馬台国を名乗ったために生れ、その時生じた勘違いが邪馬台国論争を300年も続かせたことを明確にしている。

